

| 全分野 | | 体育 | | | | | |
|-------------------------|------|--|--------------|-----------|-----|----|------|
| 学年 | 第2学年 | 担当教員名 | 館岡正樹, (恐神邦秀) | | | | |
| 単位数・期間 | | 2単位 | 通年 | 週あたりの開講回数 | 1回 | 必修 | 履修単位 |
| 授業の目標と概要 | | 各種の運動はその種目によりそれぞれ異なった特性を持っている。こうした特性の違う種目に応じた練習・修得の過程でルール・マナー・安全に対する態度・知識を会得すると共に、体力を高め運動を楽しむ態度を養う。また、協調性・社会性を身につける事を期待する。 | | | | | |
| | | 釧路高専目標 | E:50% F:50% | JABEE目標 | e f | | |
| 履修上の注意(準備する用具・前提となる知識等) | | 講義は全て実技である。実技の実習場所は体育館、屋外(野球場・サッカー場・アイスホッケー場)で行うが、実技にふさわしい服装(運動着・運動靴)で参加すること。 | | | | | |
| 到達目標 | | 個々人の運動能力や体力に格差が有る事から、一概に設定出来ないが、個々人の体力に応じ、積極的に各種目に参加することができ、運動能力を高めると共に協調性・社会性を身につける事ができる。 | | | | | |
| 成績評価方法 | | 運動への取り組み状況・意欲・協調性(60%)運動能力等(40%)とし、総合評価を行う。合否判定もこれに同じ。したがって運動が不得手だからといって、評価が下がる事はない。積極的に取り組む事が肝要。 | | | | | |
| テキスト・参考書 | | 参考書；イラストによる最新スポーツルール(大修館) | | | | | |
| メッセージ | | 屋外での種目は、天候により適宜屋内種目に変更する。また運動が得意な人、不得手な人等個人差があると思われるが、得意・不得手にかかわらず積極的に参加すること。 | | | | | |
| 前関連科目 | | | | 後関連科目 | | | |

| 授業内容 | |
|--|--|
| 授業項目 | 授業項目ごとの達成目標 |
| ・ガイダンス、柔軟体操、ストレッチ (1回) ・バレーボール (基本練習) (2回) バレーボール (応用ゲーム) (2回) ・体力診断テスト (1回) ・運動能力テスト (1回) | ・1年の授業の流れと注意事項 ・パスを正確に行うことができる。 ・狙った位置にサーブを打つことができる。 ・ネット上の高い位置でスパイクを打てる。 ・基本的な反則を理解したうえで相互審判をしながらゲームができる。 ・自己の体力・運動能力を確認することができる。 |
| 前期中間試験 | 実施しない |
| ・ソフトボール (基本練習) (2回) ソフトボール (ゲーム) (2回) ・サッカー (基本練習) (2回) サッカー (ゲーム) (2回) | ・基本的なスローイングとキャッチングができる。 ・正しいフォームでのピッチングができる。 ・お互いに協力し安全に注意してゲームを行うことができる。 ・パスやドリブルなどを状況に合わせて使うことができる。 ・基本的な反則 (ハンドリング・キッキング・ハイキック) を理解したうえで安全にゲームができる。 |
| 前期期末試験 | 実施しない |
| ・格技 剣道基本練習 (3回) 剣道 応用 (2回) ・種目選択 (テニス・羽球・フットサル・卓球・バスケットボール等) (2回) | ・礼儀作法を理解し剣道用具、扱い方を理解することができる。 ・正しい振りかぶり、打ちおろし、足さばきができる。 ・対人を想定した正しい部位への打ち込みを理解し習得することができる。 ・各種の運動種目を行う事で、運動能力・身体能力を高めると共に、団体・個人種目への参加を通じて、社会性、協調性を身につける事ができる。 |
| 後期中間試験 | 実施しない |
| ・種目選択 (テニス・羽球・フットサル・卓球・バスケットボール等) (3回) ・アイスホッケー (基本練習) (2回) アイスホッケー (ゲーム) (3回) | ・各種の運動種目を行う事で、運動能力・身体能力を高めると共に、団体種目・個人種目への参加を通じて、社会性、協調性を身につける事ができる。 ・フォア、バックスケータリングができる。 ・相手に正確なパスができる。 ・正確で強いシュートが打つことができる。 ・ポジションを考えたゲーム展開ができる。 |
| 後期期末試験 | 実施しない |

| 到達目標 | | | |
|---|--|--|--------------------------------------|
| 1.各種スポーツの基本的な技術を習得し、ルール等を把握した上で実践することができる。また、毎時間授業に出席して、集団の一員としての役割と責任を自覚し、個人や集団の安全に注意しながら練習や試合に集中することができる事が到達レベルである。 | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安(優) | 標準的な到達レベルの目安(良) | 未到達レベルの目安(不可) |
| 評価項目1 | 標準的な到達レベルの目安に加えて、選択した種目の実技試験(30点満点)において、1/3以上の点数を取る。 | 授業へ遅刻、欠席、見学することなく安全に注意しながら積極的に授業に取り組む。 | 遅刻、欠席、見学が比較的多く、授業に集中しない又は積極的に取り組まない。 |

| 評価割合 | | | | | | | |
|---------|----|----|------|----|---------|-----|-----|
| | 試験 | 発表 | 相互評価 | 態度 | ポートフォリオ | その他 | 合計 |
| 総合評価割合 | 30 | | | 70 | | | 100 |
| 基礎的能力 | 30 | | | 70 | | | 100 |
| 専門的能力 | | | | | | | |
| 分野横断的能力 | | | | | | | |